

市政会の議員に 二つの質問に答えて いただきました

回答順不同

質問1
任期も残りわずかになりましたが、それぞれの活動を振り返ってください。



ひるま

今期五回目の市議会議員として、大きく変わった事は一人会派から古巣の市政会に戻ったことです。

会派の会長として新生市政会で皆さんの協力も頂き自分なりに頑張れたと思います。

市を考えると新庁舎・小中学校の建て替えや府中基地跡地の利用変更や分倍河原駅の再開発など市民に関わる問題があります。

特に新型コロナウイルスの流行で人との関わりの変化に苦労をした四年間でした。これからも市民の話を市政に届けるために頑張ります。



横田

令和元年5月に第57代府中市議会議員に就任いたしました。その直後あたりから、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、議長としての会議の公務が中止や書面会議、オンライン会議で行われ、他市の議長と顔を合わせて意見交換等ができず、大変残念に思っています。現在は、府中市国民保健運営協議会の会長として、国民健康保険の複雑な仕組みの中、適切な協議会運営ができるよう、職務を全うしております。



佐藤

令和元年から三年間、学校施設老朽化対策特別委員会に所属し、令和3年に委員長を務めさせていただきました。

卒業生の一人でもある第八小学校の改築が完了することが、大変思いに

残っています。

また、常任委員会では二年間総務委員長を務めさせていただきました。予算・決算特別委員会の長を兼ねる職務ですの大変なプレッシャーがありました。貴重な経験であると共に市政へ微力ながら一助となれたと思います。



松村

現在、総務委員会委員長としての重責を仰せつかり市政全般にわたって様々な取り組みをさせていただいております。

これからも次世代に向け、市の山積している課題に引き続き対応していかなければなりません。

私は、その中で主に公共施設の老朽化対策や西府駅・分倍河原駅周辺の環境整備、公共交通の充実、激甚化する自然災害への防災対策に加え、脱炭素社会に向けた事など多岐にわたる分野を長期的に取り組んでまいりました。

今後においても未来に向かってしっかりと取組みたいと思います。



秋山

1期目となる4年間は、令和元年東日本台風による市政初の避難勧告の発令や新型コロナウイルス感染症拡大により、市民生活、子ども達の教育現場にも大きな影響を及ぼしました。

この間、保健所の検査機能が逼迫しているなか、PCR検査バス導入の提案をし、検査体制の拡充に努めました。コロナ禍で家庭・教育環境も変化し、児童虐待防止、不登校児童支援についても更なる対策が必要となりました。また、子ども達の防災意識を高める防災教育の充実にも力を入れました。

これからも市民の安全安心な環境整備に努めてまいります。



市川

今日までの一六年を振り返りますと、永年の懸案でありました美術館通りの完全開通の整備促進、四谷さくら公園の拡張整備、地域に親しまれる農業公園の設置、コミュニティバス南町・四谷の

延伸及び日新町・四谷6丁目ルート運行、府中市空家等対策協議会条例制定等の実現に向け提言してきました。また、今期につきましては昨年度から監査委員として、議員では目にしない詳細な資料提示により監査に臨んでいます。



増山

この4年間で大きな出来事と言えば、やはりコロナ対策です。

市の対応について多くの市民からご意見をいただいたことを市政会でもりまとめ、緊急提案として何度も市長に提出しました。全庁あげての対応依頼や情報開示、ワクチン接種会場の拡大など。

また、ずっと要望してきた学校でのICT活用も一気に進みましたが、当初なかなか活用しきれず、学校支援員やネットワークの増強等を要望し、ようやく軌道に乗り始めました。



質問2

これからの活動で力を入れたい事は何ですか。



ひるま

新しいウィルスの影響で活動は難しくなると思いますが、市民の生命を守る為、市長とも連携を密にとり素早く対応したいと思っております。

山積している問題を解決するために市政会全員で力を合わせて頑張ります。

特に力を入れたいことは、府中基地跡地の利用計画です。二十年間の議員生活の中で、多く跡地対策に所属をさせてもらいました。今後の府中市にとっては最後で広大な跡地をどう利用するかが最大の課題です。

住みやすい府中市の実現のために努力をしたいと思っております。



横田

府中市の顔と言える馬場大門「けやき並木通り」のモル化に伴う、府中市所分館の、公共施設マネージメントによるあり方について、現行の運営状況も踏まえつつも、現在の市民ニーズも加味しながら、府中市の都市農業、製造業、商業を市民や府中市を訪れる人に発信できる場所としての、改築と有効活用に取り組みしていきたい。



佐藤

高齢者や障害をお持ちの方の買い物や病院通いなどの移動を助ける政策を進めたいと思っております。

「ちゅうバス」の運行の見直しから、更に新たな手段で市内を移動できるように提案をしていきたいと、考えています。

また、地域で助け合い課題を解決できる仕組み作りを更に進め、福祉だけでなく、防災などにも地域が主役になる府中市にしていきたいと考えています。



松村

近年の社会情勢を鑑み、市民ニーズもますます多様化しています。

このような状況の下、地域と密着した取組や時代の変化に対応する事業の展開が引き続き必要であると考えます。

特に高齢者福祉をはじめ、防犯防災、道路環境の整備、経済対策などについて、これからも継続して取り組んでいく事が重要です。

市民ニーズを的確に捉え、市政の施策に反映していく事でより住みやすい府中市となるように目指してまいります。



秋山

本市も出生数の減少や将来的には人口減少の課題もあり、未来を見据えた施策展開で新たな魅力創出が必要であります。

「都内初の女子野球タウン認定」「読売巨人軍との協定締結」によるスポーツタウン府



市川

京王線で最も危険な東府中2号踏切を解消するため、京王線連続立体交差事業は不可欠であることから将来の事業化を見据えたロードマップ作成等を要望していくこと。また、中原駅周辺のバリアフリー化を求めている中、高齢者や障害者などをはじめ市民のみならず、交通事業者、生活関連施設など、市内全域を捉えた面的及び一体的なバリアフリー化の実現に向けて会派をもって継続的に取り組んでまいります。



増山

本年、念願であった「狭あい道路を拡幅するための新設条例」ができたことは感慨深く、今後狭い道路の拡幅を推進していきます。

また、近年の猛暑で、学校プールの水温がお湯になってしまい活用されていない現状から、生涯学習センターや民間の室内プールを活用する等、年間を通じてプール授業を確保することを提言中です。

そして、ちゅうバスは近隣駅を発着点とする効率的なルートに見直し、通勤通学でも利用できる時間帯の運行など、改善を提言しています。

